

後記

今年の一月号の本誌は、故倉橋惣三主幹の巻頭の言に始まって、第五十四巻の半ばにして倉橋主幹の天に召されたことは、本誌の五十四年の歴史の中でも誠に大筆すべき大事件であった。倉橋主幹の言葉をもって始められた此の巻を終るにあたり、その半ばにはからずも特集することを余儀なくされた六・七月号をとりあげてみて、誠に感慨無量である。再び倉橋主幹の温情溢れる声に直接ふれることのできない物足りなさを思うのである。されど倉橋主幹は天寿を全うされたとはいえず、本誌の使命は未だ終らず、我が国の幼児教育界はいよいよ進展し、発展の歩を進めてゆくであろう。長い歴史の眼から見れば、一つの事件は生成発展しゆく社会の一つの鎖にすぎない。倉橋主幹の四十年にわたり本誌に刻まれた足跡は、人も知る如く誠に輝やかしい足跡であった。私どもはかくして結ばれた鎖に又新たな鎖をつなげてゆくことができよう。我が国の幼児教育の諸分野にわたって、更に新たな理解を加え、本道をふみはずすことなく、正しき方向に発展の道

を進めるために力を合わせる事ができる。現代の我々の社会は、広い社会の問題はもちろん、一つの専門分野においても、相互の理解と協力を必要としている。正しい方向に我が国の幼児教育を進めるために、此の分野及び隣接分野に関してよりよき理解を求め、理論にそして又実際面に更によき洞察をうるために、今後本誌はその努力をつづけるであろう。教育の問題は単に一分野の技術の問題にとどまらず、広く人間及び社会と関連するが故に、我々は一層広く大きい洞察を必要とするのである。本誌はその問題をたえず考えて来たし、又今後も考えつづけるであろう。そして我が国の社会が健全に発展するために、幼児教育を通じて努力したい。

本巻は、予期しない行事がいろいろ出て来たために、誌面の都合で、掲載すべき論説や研究で収載しきれないものが沢山ありました。そのために読者及び特に執筆の諸氏に御迷惑をおかけしたことをお詫び申し上げます。読者諸氏のよい年を迎えられますよう祈ります。

幼児の教育 第五十四巻 第十二号

定価金五十円

昭和三十年十一月二十五日印刷

昭和三十年十二月 一 日発行

東京都文京区大塚町三五

お茶の水女子大学附属幼稚園内

編集兼 津 守 真

発行者

東京都文京区大塚町三五

お茶の水女子大学附属幼稚園内

発行所 日本幼稚園協会

東京都板橋区志村町五番地

印刷所 凸版印刷株式会社

東京都千代田区神田小川町二ノ五

発売所 株式会社 フレーベル館

振込口座東京一九六四〇番

◎本誌御購読についての御注文は発売所フレーベル館にお願いします。